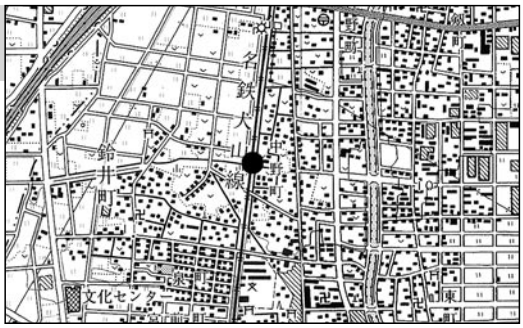
御山寺（ごさんじ）遺跡



調査地点（1/2.5万「一宮・小牧」）

所　在　地　岩倉市中野町
（北緯35度17分18秒 東経136度52分13秒）

調査理由　県道一宮春日井線街路新設改良工事

調査期間　平成16年４月(範囲確認調査)、
６月～９月（本調査）

調査面積　2,580㎡

担　当　者　石黒立人・加藤博紀

調査の経過　本遺跡の発掘調査は、県道一宮春日井線街路新設改良工事の事前調査として、愛知県建設部都市整備課から愛知県教育委員会を通じた委託事業として、当センターが範囲確認調査と本調査を実施した。範囲確認調査は四月中旬に、本調査は名鉄犬山線を挟んで東西に調査区（西側を04Ａ区、東側を04Ｂ区と呼ぶ）を設けて、平成16年６月から９月までの４ヶ月にわたって実施した。調査面積はあわせて2,580㎡である。

立地と環境　調査区周辺はちょうど、犬山扇状地から沖積平野に移行するあたりに相当し、標高は約11mである。明治17年の地籍図では大きく蛇行する旧五条川の痕跡が水田として表記されており、調査区はこの旧五条川が東に強く屈曲する部分の北東に位置している。04Ａ区は表土直下が長さ30cmほどもある大きな円礫を含む礫層であり、これはちょうど扶桑町や江南市の北を流れる現在の木曽川で見つかる円礫に相当する。礫層は04Ａ区の東部で急激に地下にもぐり、04Ｂ区では砂層になる。おそらく、旧地形は西側の旧五条川寄りが高く、東に下降する。04Ａ区西部で古墳時代以後の遺構が大溝以外見つかっていないは、上部の削平によるのであろう。

調査の概要
古墳時代　古墳時代前期に属す竪穴建物跡は、04Ａ区の西部で２軒が隣接して、東部では２軒が重複して見つかった。両者の間には小穴が群集し、窪地に堆積する遺物包含層も認められた。西部の２軒は礫層を掘り込んでつくられている。床面には炭化物がひろがり、壺や甕の破片が出土した。東部の２軒のうち、上部の竪穴建物跡からは壺や甕が砂層中から潰れて出土したので、洪水によって埋没したと考えられる。04Ｂ区では同時期の竪穴建物跡はなく、古墳時代中期の土坑がいくつか検出できたにすぎない。

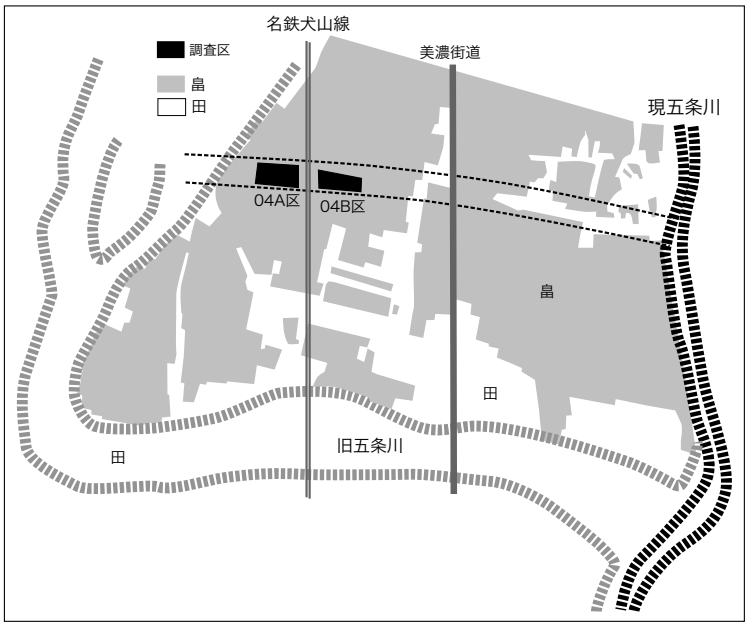


図１　明治17年地籍図による旧地形の復元

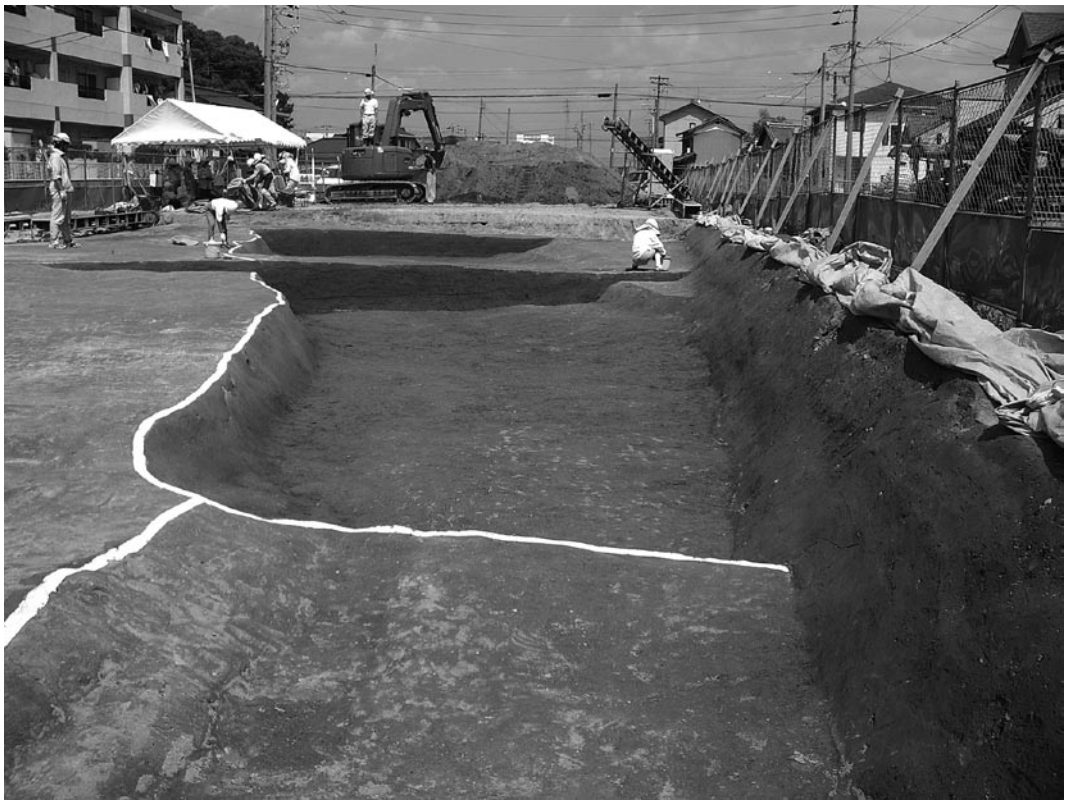
奈良・平安時代

竪穴建物跡は04Ｂ区で８軒検出したが、この中にはカマド周辺のみ検出したものを含む。カマドを含めて全形のわかる竪穴建物跡は１軒しかないが、長辺は東西方向の長方形で、カマドは北辺にあり、その北側には煙り出しのトンネル（煙道）も付設されていた。柱穴については判然としない。04Ａ区で見つかった掘立柱建物跡は、柱間は１間×２間で、長辺が南北方向を向く。室町時代の柱穴が付近に多数あるが、穴の形が異なっているために判別できた。柵跡は04Ｂ区西端で見つかった。柱穴が東西方向に並び、その中の一つには平安時代の須恵器片が詰め込まれていた。同じように須恵器片が詰め込まれた柱穴は他に２つあるが、掘立柱建物跡と柵跡のどちらであるかは不明である。このほか多数の土錘とともに焼けた粘土塊が集中して出土した土坑がある。

室町時代後半以後

今回の調査では鎌倉時代の遺物も若干出土したが、遺構は明確ではない。ここでは室町時代以後の遺構のみ取り上げる。04Ａ区では平行する２条の溝と多数の柱穴が検出された。前者は屋敷地周囲の「道」状の空間であり、後者は掘立柱建物群が展開したことを示している。調査区の西側では同時期の遺構は皆無であった。04Ｂ区では、調査区西部で平行、または重複する複数の溝と多数の柱穴を検出し、幅の広い溝を挟んだ東側では多数の土坑を検出した。室町時代後半には多数の柱穴が東西の調査区から見つかったが、残念ながら04Ａ区では柱穴のまとまりは確実には把握できなかった。いっぽう、04Ｂ区では柱穴に川原石が残っているものが多く、柱の基礎となる根石と想定された。調査区の西部では建て替えが確認できる掘立柱建物跡を確認した。

今回の調査でもっとも問題となるのが大溝である。大溝は、04Ａ区では幅約５m、深さ２m弱の規模で、調査区の南辺にそって東西にのびている。04Ｂ区でも調査区南端で東西にのび、調査区東部では重複して幅約７m、深さ２m弱の大溝が再掘削されていた。大溝は最終の埋没時期が17世紀で、上部を洪水層が覆っていた。（石黒立人）



04B区大溝 西から

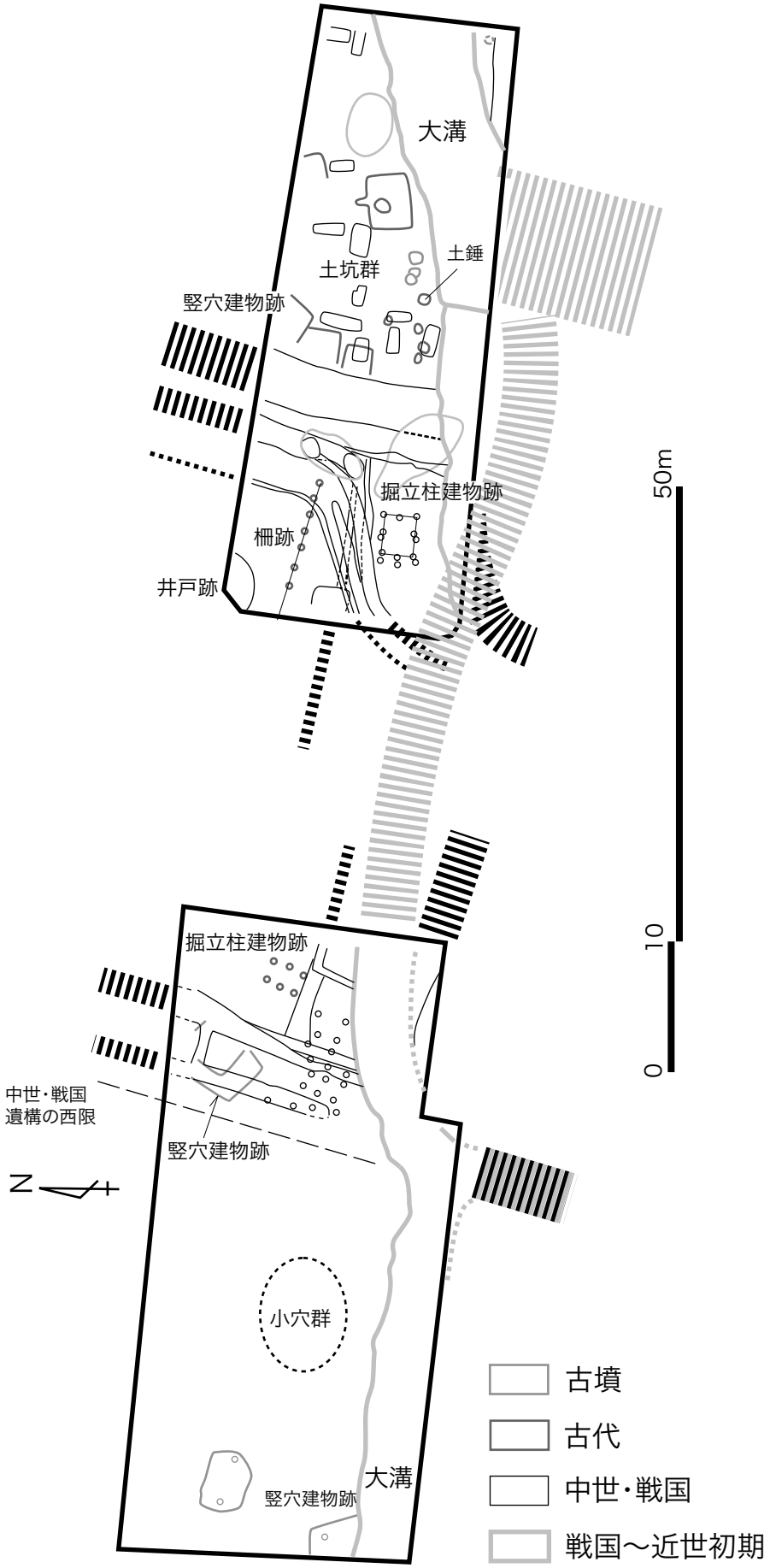
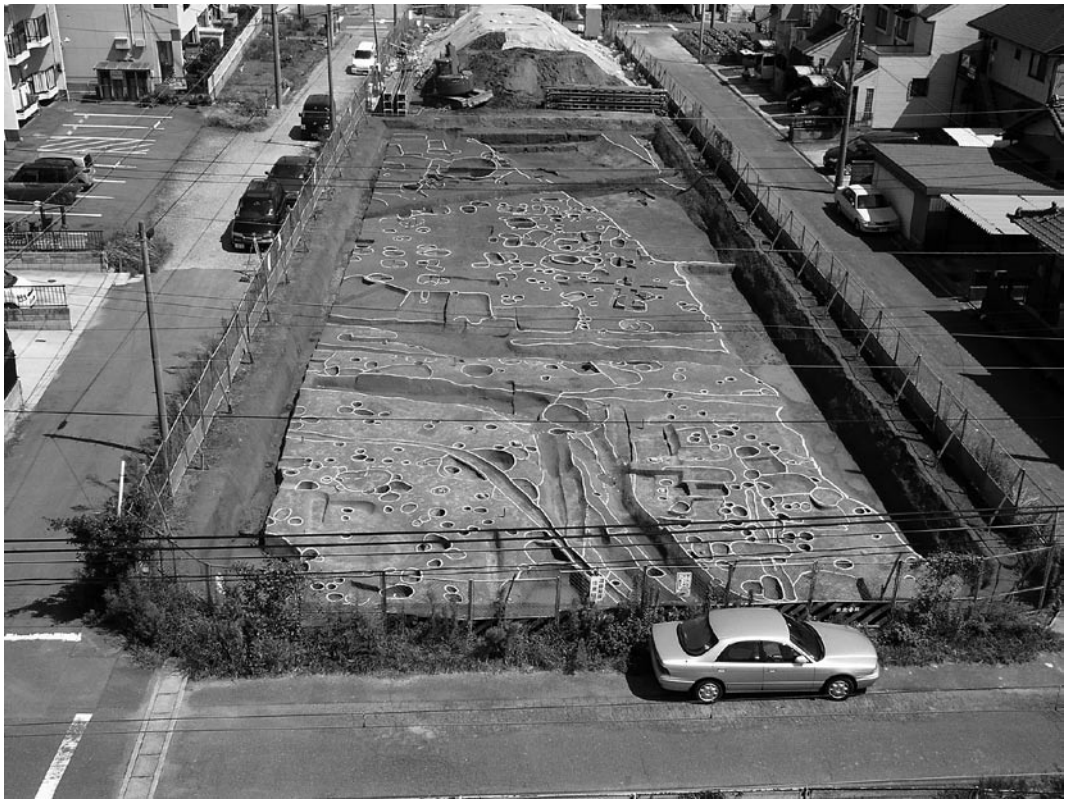


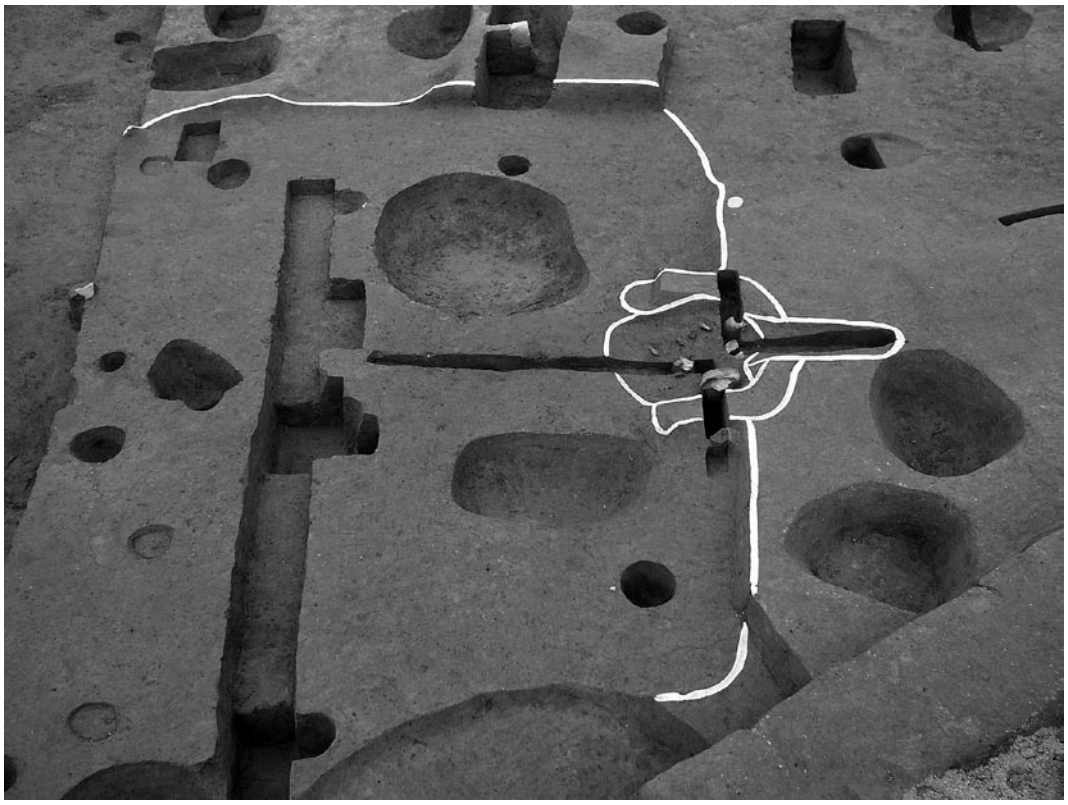
図２　御山寺遺跡遺構配置図

調査区全景　西から　中央が名鉄犬山線

04Ａ区全景　北西から　手前の白い部分が礫層　右上が大溝



04Ｂ区下面全景　西から



古代の竪穴建物跡